

令和3年度 第2回 健康横浜21推進会議 議事録	
日 時	令和4年3月28日（月）18時30分～20時30分
開催場所	横浜市役所18階 共用会議室 みなと4・5
出席者	健康横浜21推進会議委員 16人（別添資料1）
欠席者	健康横浜21推進会議委員 4人（別添資料1）
開催形態	公開（傍聴者3人）
議 題	1 開 会 2 あいさつ 3 議事 (1) 第2期健康横浜21の最終評価報告書（案）について 4 報告 (1) 歯科口腔保健に関する令和3年度の取組及び歯科口腔保健推進検討部会の検討状況について (2) 食育に関する令和3年度の取組及び食育推進検討部会の検討状況について (3) 第2期健康横浜21計画評価及び次期計画策定検討部会の開催状況について (4) 受動喫煙防止対策事業について (5) 令和3年度における健康経営の推進について (6) よこはまウォーキングポイント事業について (7) 糖尿病の重症化予防事業における地域ネットワークについて 5 その他 今後のスケジュールについて
決定事項	第2期健康横浜21の最終評価報告書（案）は、本日の議論を踏まえて加筆修正するが、概ねこの案で了承された。
開 会	（健康福祉局健康安全部 嘉代部長） ただいまより「令和3年度第2回 第2期健康横浜21推進会議」を開催する。 本日の会議について、公開とさせていただくこと、および議事録作成のため、議事内容を録音させていただくことについて、御了解いただきますようお願いする。 次に、事務局から定足数について御報告する。本会議は、横浜市附属機関設置条例の規定に基づき、健康横浜21の推進及び評価・策定に関する事務を行う場である。当会議の委員総数は20名で、本日は現時点で13名の委員が出席している。 資料2 健康横浜21推進会議運営要綱第6条第3項の規程に基づき、過半数を満たすため、本会議が成立していることを報告する。
あいさつ	（健康福祉局 田中局長） 市民の健康づくりの推進について、日頃から様々な形で御尽力いただき、厚く御礼申し上げます。 本年度は、平成25年度から推進してきた「第2期健康横浜21」の最終評価を行

	<p>うため、皆様の中から5名の方に、本会議の下部組織として発足させた「評価・策定検討部会」への参加をお願いし、大変活発に、議論していただいた。</p> <p>この最終評価は、約10年前に掲げた目標に対し、市民の健康づくりの進捗状況や課題といったことを振り返り、取りまとめ、次の計画につないでいくことがねらいとなる。</p> <p>この約10年間で大きな出来事というと、まずは、平成23年3月に発生した東日本大震災、そして、もう一つは、やはり新型コロナだろうと思う。流行開始からこの2年間で、世の中の変化が加速し、それが新しい生活様式、新たな日常になりつつある。受診控え・外出控えが与えた健康への二次被害、特に高齢者にとって地域の会合等がなくなり、これまでの活動の活発さがなくなりフレイルにつながるといったマイナスの作用、一方では、新型コロナの重症化リスクとして、糖尿病、高血圧、喫煙、がんなどが知られるようになり、生活習慣病予防の大切さが、くしくもコロナによってクローズアップされた。</p> <p>コロナ禍において、集合、対面で行う取組は縮小せざるを得なかったが、健康づくりの取組に関しては、人と人との交流を通じた共感や実体験というものの重要性に改めて気づかされたと感じている。</p> <p>これらの経験を踏まえ、どう生かしていくかも今後の論点だろうと思う。</p> <p>次年度には、次の10年を見据えた第3期計画策定の実質的な議論を始める。</p> <p>本日は限られた時間ではあるが、活発な議論をお願いしたい。</p> <p>(嘉代部長)</p> <p>これからの進行を豊福会長にお願いする。</p> <p>(豊福会長)</p> <p>ここから進行をさせていただく。</p> <p>前回の推進会議で、私が会長となり、副会長には田口委員を指名した。もうお一人の副会長をこの場で指名するとお伝えしたが、本日は議題も大変多いので、次回以降、必要に応じて指名させていただければと思う。よろしいか。</p> <p>(一同)</p> <p>異議なし。</p>
<p>報 告</p>	<p>【報告】「3議事」に関連する「4報告(1)から(3)まで」の報告</p> <p>【報告(1)】</p> <p>事務局から、資料4について説明</p> <p>(豊福会長)</p> <p>何か意見、質問がある委員はいるか。</p> <p>(佐藤委員)</p> <p>資料4の「主な意見」「今後充実・強化すべき取組や取組を行う上での課題」に押さえたいことがすべて網羅されている。特に乳幼児期または高齢者の口腔機能の向上が非常に重要である。歯があるだけでなく、奥歯で噛めることが重要。妊婦の時から意識することがオーラルフレイル、フレイル予防につながるの、取組を考えていきたい。AYA世代(15~30歳代)の歯科健診等の機会がないので、</p>

	<p>関係団体と連携しながら健康教育の取組を検討していきたい。</p> <p>(豊福委員)</p> <p>「学校では、歯科健診だけでなく歯科保健指導も行っている」と記載されているが、教育委員会の予算が少なく、保健指導の件数が減っていないか。巡回で各学校行っていたものが、手上げ制になっていると聞いているが、何かわかれば報告をお願いしたい。</p> <p>(佐藤委員)</p> <p>巡回歯科衛生士が常勤で2名いるが、もうすぐ定年ということで、うまく予算が取れないと聞いている。歯科医師会と行政で、歯肉炎予防事業という新たな事業で、歯科医師会で雇用している歯科衛生士を派遣して行っている。数が減っているのは、コロナの影響があるので致し方ないと思っている。研修や指導もしにくい状況である。望ましいのは、巡回歯科衛生士を途切れなく横浜市の方で雇用し、小中高、特別支援学校等に巡回指導に行っていたのが理想。検討していただきたい。</p>
	<p><b>【報告（2）】</b></p> <p>事務局から、資料5について説明</p>
	<p>(豊福会長)</p> <p>何か意見、質問がある委員はいるか。</p> <p>(守分委員)</p> <p>食育推進検討部会では、「食育」の目標に対してのハードルが高いのではないかと、各団が課題を共有して進めていくことが重要である等の意見が出されていたので、今後のすすめ方等を検討していただければと思う。</p> <p>(豊福会長)</p> <p>よこはま朝食キャンペーンは大切な取組と考える。コロナ禍でもキャンペーン等を運営していく方策を検討して、取組を継続していただきたい。</p> <p>(長谷川委員)</p> <p>よこはま健康応援団で、「事業の見直しを検討します」と記載されているが、これについて、もっと説明をお願いできるか。</p> <p>(事務局)</p> <p>事業の見直しについて、現在はまだ方針は決まっていない。新たな登録店舗の数が伸び悩んでいる現状なので、課題の検討から今後進めていきたいと考えている。</p>
	<p><b>【報告（3）】</b></p> <p>事務局から、資料6について説明</p>
	<p>(豊福会長)</p> <p>この部会に関する意見については、議事の中でお願いしたい。</p>
議 事	<p><b>【議事】</b> 第2期健康横浜21の最終評価報告書（案）について&lt;資料3&gt; 事務局から資料3-1、3-2について説明。口頭による補足として、基本目標である「健康寿命を延ばす」については、平均寿命よりも健康寿命の増加分の方が下回</p>

り、日常生活に制限のある期間が延びたということになるが、健康寿命も平均寿命も両方延ばすことができたことは、人生100年時代に向けて成果があったと考える。また、健康寿命の算出に使用される「日常生活の制限あり」の状態には、寝たきりや要介護ではないが、仕事や運動に制限があるという状態も含まれる。どの年代でどのような日常生活への影響が反映されたのか、今後分析を加えて、課題を捉えていきたい。

(豊福会長)

評価策定検討部会には、田口副会長が学識として参加されているが、コメントがあればお願いします。

(田口副会長)

評価策定検討部会の様子をお伝えしたい。白熱した議論が行われ、報告書やデータを基によりよくしていくため、修正に修正を重ねて報告書を作成した。

コロナがあったにもかかわらず、市民の健康づくりをほぼ維持または高められた等、成果が上げられた計画、評価になったと思う。

横浜市が力を入れた強化ポイントは、「楽しみながら行う」ことで、健康づくりを我慢をして行うのではなく、インセンティブを付与しながら、楽しみながら取り組むウォーキングポイントを進めてきた。

また、関係団体との連携も強みだと思う。横浜市には昨年から関わるようになったが、元々は、地方の大学にいたので、そこでは住民組織の活動が活発だった。横浜市は都市部でありながらも住民組織活動が活発で、関係団体と連携しているのが、素晴らしいと思った。それが、維持や目標に近づいたことにつながったのだと思う。

もう一つ伝えたいことは、なぜ評価するかということである。

PPDACサイクルをまわすことが大切になる。市民一人一人が主体的に取り組み、この評価を自分の行動にどのように活かしていくことが大切になってくると思う。課題が見いだせたか、次に取り組む目標がイメージできたか等、そのような視点でも見ていただき、本日、議論いただければと思う。

(豊福会長)

何か意見、質問がある委員はいるか。

(佐藤委員)

平均自立期間はどのような指標なのか。

(事務局)

平均自立期間は、健康寿命と同じようなものにとらえていただいてよい。「有意に長い」が「自立している期間が長い」、「優位に短い」が「自立している期間が短い」、ということになる。

(佐藤委員)

青葉区、都筑区、港北区は健康寿命が長いけど、鶴見区は短いということになる。自立期間の伸びでいうと、鶴見区は逆に改善してきたということになるのか。

(事務局)

その通りである。

(佐藤委員)

PPDACサイクルで、実行の「Do」はどの部分になるか。

(事務局)

事業評価の手法はPDCAとなる。各事業をPDCAサイクルで実施し、それらの効果を総合的に見ていくものが、PPDACサイクル(データに基づく課題解決のためのフレームワーク)であり、ここに「Do」は含まれない。

(佐藤委員)

「睡眠が6時間未満の小学生が増加、さらなる取組が必要」と記載がある。学校歯科医を担っていると、朝一の小学校の健診であくびをしている子が多い。今は、塾、スマホ等、生活習慣が違ふとは思いますが、具体的に考えている取組はあるか。

(事務局)

現在、考えている具体的な取組はないが、教育委員会の方でゲーム依存等の調査も行っているので、今後、取組については教育委員会と検討していくことになる。学校でできること、地域でできることがいろいろあると考えている。

(佐藤委員)

資料3-2スライド17はよくまとまっている。「60歳代の咀嚼良好者の割合に変化なし」と、「今後充実・強化すべき取組」の「高校卒業後は定期歯科健診の機会がない」ことに対し、取り組まなければいけないと考えている。

スライド22にがん検診について記載があるが、定期歯科健診で口腔がんはすぐわかる。口腔がんは、舌、歯ぐき、上あご等いろいろなところで行える。発見が早ければ早いほど治る割合が高い。95%が改善する。口腔がんは、QOLに直結する。内臓関係の全身麻酔の手術前等、口腔を清潔にしておくことが必要なので、日頃から歯科健診を受けている等、周術期連携により、入院日数が減ったり、術後の回復の良好につながる。

いつ何時起こるかわからない災害を考えて、日頃から口腔を清潔に保つておくことで肺炎のリスクも減らせる。日頃からの定期歯科健診が重要と考える。横浜市だけでも特定健診の中に歯科健診という文言を入れていただければと思う。

(瀬戸委員)

評価策定検討部会に参加していた。概要と最終報告書を作成するのに、様々な意見、評価の変更等、修正を経て、本日の報告書に至っている。

市民が見て見やすく、わかりやすくなるように、イラスト、表やグラフを活用し作成した。キャッチーなコラムを所々に掲載し、横浜市の取組等について広報し、より自発的に健康づくりの啓発に取り組めるよう作成してきた。一委員としても、当初よりだいぶ改善された報告書と思っている。

(長谷川委員 栄養士会)

食生活分野として、評価策定検討部会に参加していた。

食生活は、概ね改善しているが、「バランスよく食べる」が悪化している。バランスよく食べることを意識していても、できていない人が多い。バランスと一

言でいっても、人によってバランスの認識が違う。皆が共通の認識にできるよう、具体的にわかるような取組が必要ということが出ていた。

「塩分の摂取量」、「3食しっかり食べる」、は目標に近づいているが、塩分の摂取量は、国の目標値が厳しくなっているため、今後も改善できるような取組の検討が必要である。

市民が見てわかりやすい視点で考えて、食生活等改善推進員のコラムも、活動の写真を取り入れてもらい、わかりやすくなった。

(豊福会長)

評価策定検討部会は、学識に臨時委員として参加いただき、専門的なアドバイスを受けながら、活発に議論し、充実した検討部会だった。

検討部会に参加していない委員もいますので、ご意見いただきたい。

(西田委員)

大変素晴らしいと思った。JA横浜は、農業に携わっているため、食の中でも、生産者として、安心安全につながるような食を提供していきたいと考えている。

健康でなければ、農業も続けられないので、健診の啓発は継続していきたい。子どもの食農教育を行っている。自分たちで育てて、収穫すると、野菜嫌いだった子が食べられた、ということがある。農業と食をつなげていきたいと思う。

(守分委員)

私たちの活動をわかりやすく掲載していただいた。私たちの活動は、「バランスよく食べる」についても啓発は行っていたが、より野菜をしっかり食べる、減塩に力を入れてきていたと思う。各区によって健康課題が違うこと、「バランスよく食べる」のマイナス評価を踏まえて、今後活動を考えていきたい。

(長谷委員)

大変わかりやすくまとめていただいた。禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議は受動喫煙・禁煙支援を主な柱として活動している。ご存じのとおり、公共の場での禁煙はかなり進んでおり、受動喫煙防止には非常に効果がある環境となってきた。

たばこ自体見ると、加熱式たばこに若い人たちはシフトしている。煙は出ないが、発がん性物質も入っている。医師にも認識が低い者がいる。販売側の広告も巧妙で、一部のデータを持ってきて安全なたばこみたいに掲載しているが、将来の健康が大きく危惧される商品である。電子たばこは、国内産はニコチンが含まれない、国外産はニコチンが含まれるのものもある。

禁煙のための禁煙補助薬の飲み薬は現在出荷停止中のため、パッチのみの対応となっている。あとは、面接法等の心理的アプローチが必要である。

コロナは呼吸器に感染するウィルスで、たばこを吸っていると重症化しやすい。タバコを吸っている人にそのことを伝えると、禁煙しようとする人も多い。しばらくマスクを着用しての生活は続くと思われるので、周りの人で吸っている人に禁煙を勧めてもらいたい。

健康寿命と平均寿命の差だが、たばこを吸っている人は、吸っていない人より

寝たきりの状態が5年間長いと言われている。健康寿命の延伸には、禁煙が役立つ。毎年、5月31日は世界禁煙デーだが、あまり盛り上がらない。健康でどのように暮らすかが重要なので、関係団体と連携して取り組んでいきたい。

(金子委員)

健康づくりに運動は外せない中心的なものにとらえており、市民に情報の提供と機会を提供している。コロナ禍の高齢者の運動控えて、最終評価においても足踏みをしたような結果が見られたが、逆に運動の重要性は一番理解しているのは高齢者でもある。社会とのつながりも心と身体の健康に重要な年代なので、その部分にアプローチできる事業を考えていきたい。

子ども世代のイベントが学校も含め少なくなっているので、イベントへの期待感も大きいと思っている。私たちで企画しているイベントに非常に多くの申し込みがあった。やはり、親としては、子どもの教育、健康、発達等に関心が高いので、そこを踏まえて子どもと親世代にもアプローチしたい。

「歯・口腔」分野の噛む力と運動能力や、「休養・こころ」分野の睡眠も運動と関係する。身体を動かせば、必然的に眠くなる。食事も体を作るということでは、運動に欠かせない。持久力というところでは喫煙が影響する。様々な分野の関係団体とのつながりを通じて、運動をさらに広げていけたらと考えている。

(河野委員)

労働基準監督署では、基本的には、法によって課せられた事業主の措置義務の履行を求めていくというアプローチを行っている。メンタルヘルス対策、長時間労働の抑制に向けた取組の結果として、市民の健康づくりに寄与することができたということであれば、幸甚に思っている。

働き方改革の最重要課題の一つが長時間労働の抑制である。引き続き取組を行っていくが、コロナ禍で働く環境が変わってきて、日常生活にも制限がある中、健康障害を起こす人が増えているという報告もある。職場でのメンタルヘルス対策が各事業所で適切に行われるように働きかけを行っていきたい。

(蟹澤委員)

最終評価報告書は市民の目から見てもわかりやすく、読みやすくなっていると思った。健診の受診率向上を保健活動推進員の重点テーマとしている。コロナ禍で受診控えもあったが、受診率が上がるように活動していきたい。

保健活動推進員のコラムもわかりやすくまとめていただいた。

報告書の中で、少しわかりにくかったのが、平均自立期間のデータで、「有意に長い」「長いが有意ではない」とあるが、「有意」についてももう少し説明があると市民にとってわかりやすい。

(鏑田委員)

食品衛生協会は、食の安全安心について推進を行っている。また、受動喫煙については、研修会等を実施している。

(田中委員)

協会けんぽは、どこの保険者もそうだと思うが、医療費に応じて翌年度の保険

	<p>料率が決まってくる。令和2年度はコロナの影響で受診控えがあり、令和3年度については、保険料率が大幅に下がる。令和3年度については一か月だけ全国平均を下回る月があったが、それ以外は全部高くなっているため、令和4年度の保険料率は上がるだろうと思っている。</p> <p>健診受診勧奨は行っているが、健診を受けない人は受けないので、どのように健診受診を勧めていくかは課題と捉えている。</p> <p>毎年受けている人は健康状態を把握し、対応しているが、約半数、健診を受診していない人がいる。その方たちが、医療に直結することも考えられる。健診を受診することが、医療費削減につながると考える。</p> <p>神奈川県女性の喫煙率が全国で5番目に高い。そういうところが、医療費が高くなったり、健康寿命の延びにもつながるのではないかと感じた。</p> <p>(高塚委員)</p> <p>横浜市国民健康保険では特定健診の自己負担額の無料化、個別受診勧奨通知の取組をされているが、国保連合会では保険者支援として広報活動や在宅保健師の電話による受診勧奨等を行っている。神奈川県国民健康保険は、令和2年度、受診率が全国47位。横浜市では年代、性別を意識して受診勧奨を検討されている。</p> <p>コロナは、基礎疾患がある人が重症化すると言われていたので、そのことをきっかけに受診勧奨を行うのも一つの方法だと考えている。</p> <p>(豊福会長)</p> <p>貴重なご意見をいただいた。意見を踏まえて事務局の方で加筆修正していただくとして、概ねこの案で了承ということによろしいか。</p> <p>(一同)</p> <p>異議なし。</p> <p>(豊福会長)</p> <p>次年度からは、第3期計画の策定ということで、引き続き議論を重ねていきたいと思うので、特に、評価・策定検討部会に参加されている委員には、よろしくお願いする。</p>
<p>報 告</p>	<p>【報告】「4報告(4)から(7)まで」の報告 事務局から、資料7から10までについて説明</p> <p>(豊福会長) ただいま、報告の(4)から(7)について、御意見、御質問はあるか。</p> <p>(一同) なし。</p> <p>(豊福会長) 以上で議事がすべて終了した。進行を事務局に返す。</p>
<p>その他</p>	<p>【その他】今後のスケジュールについて&lt;資料11&gt; 事務局から資料11について説明</p> <p>閉会 (事務局)</p>

	<p>御議論ありがとうございました。次回の会議は9月頃に開催予定。日程については後日調整する。</p>
--	---

なお、今後の新型コロナウイルス感染症の状況により、緊急的な対応が必要となった場合など、やむを得ず、スケジュールの変更を検討する場合があります。

これにて閉会とする。

## 健康横浜21推進会議委員名簿

任期:令和5年3月31日まで

(五十音順・敬称略)

	役職	氏名	職名	
1	会長	豊福 深奈	一般社団法人 横浜市医師会 常任理事	
2	副会長	田口 敦子	慶應義塾大学 健康マネジメント研究科 看護医療学部 教授	
3		大宮 淳	健康保険組合連合会神奈川連合会 事務局長	欠席
4		蟹澤 多美江	横浜市保健活動推進員会 会長	
5		金子 規子	公益財団法人 横浜市スポーツ協会 地域スポーツ振興部 地域スポーツ課長	
6		河野 治子	横浜南労働基準監督署 署長	
7		佐藤 信二	一般社団法人 横浜市歯科医師会 常務理事	
8		瀬戸 卓	一般社団法人 横浜市薬剤師会 副会長	
9		高塚 秀男	神奈川県国民健康保険団体連合会 企画事業部長	
10		田中 正行	全国健康保険協会神奈川支部 企画総務部長	
11		玉村 裕之	(株)テレビ神奈川 営業局次長 兼 営業推進室長 兼 営業推進部長 兼 事業推進部長	
12		西田 悦子	JA横浜 組織部 組織生活課 課長	
13		長谷 章	禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議 前会長	
14		長谷川 利希子	公益社団法人 神奈川県栄養士会 副会長	
15		長谷川 由希	(株)神奈川新聞社 クロスメディア営業局広告部 課長	
16		長谷山 秀信	横浜市PTA連絡協議会 2021年度会計	欠席
17		前橋 寛	相鉄ローゼン(株) 人事部マネージャー	欠席
18		守分 光代	横浜市食生活等改善推進員協議会 会長	
19		鏝田 肇	一般社団法人 横浜市食品衛生協会 副会長	
20		渡辺 哲	神奈川産業保健総合支援センター 所長	欠席